



持続可能な文化の将来—コロナウィルスと文化政策の再構築
日英国際オンラインセミナー シリーズ第2回

文化鑑賞行動と文化に関する価値観と社会・人生への価値
— 日英両国における調査結果から スロスビー教授を迎えて

2020年初めより世界中を襲った新型コロナウイルス感染症により、もっとも大きな影響を受けた産業セクターの1つに文化芸術関係があります。公演や展示の中止、文化施設の閉館といった未曾有の危機に直面し、各国の文化政策もこれまでにない対応を迫られることとなりました。文化芸術の分野は大きな影響を受けてきました。公演や展示の中止、文化施設の閉館といった未曾有の危機に直面し、各国の文化政策はこれまでにない対応を迫られることとなりました。この危機的な状況は現在進行形ではありますが、そのような最中の今こそ、文化政策の新たなあり方を模索しなければならぬと思われまます。

従来、文化政策というものに消極的ではありながら、アームズレングスによる助成の仕組み、文化の経済的・社会的価値、クリエイティブ産業政策などの点から世界の文化政策をリードしてきたともいえる英国と、やはり文化予算が豊富とはいえないものの、昨今は特に地方創生、文化観光など他の政策領域と結びつき拡張しつつある日本を比較し、文化政策と持続可能な文化の将来を考えていくことが本プロジェクトの目的です。

プロジェクト初年度は「文化政策、文化の価値に関する両国民の意識と文化鑑賞行動の実態」をテーマとして、両国でウェブ調査を実施しました。

今回は第1回に引き続きその結果と分析内容から、特に、人々の一般的な価値観（政治、社会、人生などに対する価値）と文化に関する価値との関係に焦点をあててセミナーを開催します。また、文化経済学者として世界的第一人者であり、来日経験も豊富なオーストラリア・マコーリー大学経済学卓越教授デイビッド・スロスビー氏も交えて議論していく機会とします。

本セミナーは、学術関係者のみならず、広く文化行政、文化の現場に携わる実務者たちにも向けて企画されています。90分とコンパクトな設定で日英同時通訳付きですので、ぜひお気軽にご参加下さい。

日付：2023年02月24日（金）

時間：19:00 - 20:30

形式：オンラインZOOMウェビナー

参加費：無料 申し込みフォームはこちら→ <https://forms.gle/Sdw71noxPwfrxttc7>



プログラム：

19:00-19:05 主催者開会挨拶

19:05-19:25 報告1「人々の一般的な価値観と文化に関する価値—日英調査結果より」
(同志社大学経済学部 教授 八木匡)

19:25-19:45 報告2「文化の価値、文化政策の価値—イギリスにおける調査結果より」
(キングスカレッジロンドン Sana Kim)

19:45-20:00 調査結果へのコメント
(マコーリー大学経済学卓越教授 David Throsby)

20:00-20:25 質疑応答、議論

20:25-20:30 閉会



持続可能な文化の将来—コロナウィルスと文化政策の再構築 日英国際オンラインセミナーシリーズ第2回

文化鑑賞行動と文化に関する価値観と社会・人生への価値
— 日英両国における調査結果から スロスビー教授を迎えて

登壇者プロフィール

河島 伸子 (同志社大学 経済学部 教授)

本研究プロジェクトリーダー。PhD (文化政策学、英国ウォーリック大学)
専門は文化経済学、文化政策論、アートマネジメント論、コンテンツ産業論など
主書に『コンテンツ産業論第2版』、共著に『新時代のミュージアム』『変貌する日本のコンテンツ産業』
『イギリス映画と文化政策』『グローバル化する文化政策』『文化政策学』『アーツマネジメント』
Film Policy in a Globalized Cultural Economy (with John Hill [eds], Routledge, 2017)、
Asian Cultural Flows (with Hye-Kyung Lee [eds], Springer, 2018)など。
文化審議会委員、同文化政策部会部会長、同無形文化遺産部会委員他を務める。



Hye-Kyung Lee (キングスカレッジロンドン教授文化政策)

本プロジェクト共同リーダー。英国キングスカレッジロンドン文化・メディア・クリエイティブ産業
学部文化政策教授。文化セクター、国家、市場の関係に関心があり、文化政策、芸術助成、クリエイ
ティブ産業、文化産業政策、著作権などを研究している。著書に『Cultural Policies in East Asia』
(2014)、『Asian Cultural Flow』(Springer 2018)、『Cultural Policy in South Korea』
(Routledge 2019)、『Routledge Handbook of Cultural and Creative Industries in Asia』
(2019) などがある。Cultural Trendsを共同編集している。ESRCが資金提供するSustainable
Cultural Futures (2022-2025) を主導するほか、ESRC Network on Globalizing South
Korean Creativity (2022-23) を共同主導している。



八木 匡 (同志社大学 経済学部 教授)

専門：公共経済学、スポーツ経済学、文化経済学、教育経済学 経済学博士
名古屋大学大学院経済学研究科博士課程単位満了退学
京都大学経済研究所助手、名古屋大学経済学部助教授を経た後、
現在同志社大学経済学部教授、日本経済学会理事(2002年～2007年)、
文化経済学会<日本>会長 (2018年～2020年)
主著：European Economic Review等海外学術雑誌等に論文を多数掲載
『教育と格差』、『スポーツの経済と政策』、『スポーツの組織文化と産業』、
The Kyoto Manifesto for Global Economics: The Platform of Community,
Humanity, and Spirituality等の著書を執筆。



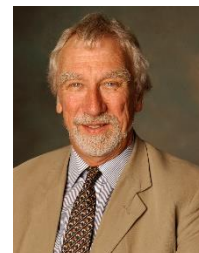
Sana Kim (キングスカレッジロンドン)

キングスカレッジロンドンの文化・メディア・クリエイティブ産業学科の博士研究員。クリエイティ
ブ産業・経済という広い視野の中で、文化政策、クリエイティブワーク、クリエイティブエコロ
ジー・生態系に関心を持つ。1997年にカザフスタンで行われた首都移転が、その後のカザフスタンの
新首都(アスタナ)と旧首都(アルマティ)の創造的発展に与えた影響について、博士課程で研究し
ている。博士号取得後、DISCE (Developing Inclusive & Sustainable Creative Economies) と題
するEUの共同プロジェクトに参加し、ヨーロッパ全体の創造的経済の成長を向上させるための研究を
行った。



David Throsby (マコーリー大学 経済学卓越教授)

シドニー大学修士、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスPhD。文化経済学者として世界中で
よく知られ、日本語他等8か国語に訳された著書(邦題)「文化経済学入門」「文化政策の経済
学」はいずれも広く読まれている。現在は文化遺産の経済学、創造産業、芸術家の経済状況、先住
民文化の経済、持続可能な成長と文化、経済と文化政策の関係などを研究している。ヴィクター・
ギンズバーグ教授と共編著でまとめた「文化と芸術の経済学ハンドブック」全2巻もある。



* 本セミナーは、日本学術振興会「国際共同研究事業 英国との国際共同研究プログラム
(JRP-LEAD with UKRI)」に採択され日英のチームで進めている国際共同研究プロジェクト「持続
可能な文化の将来—コロナウィルスと文化政策の再構築」(2021年12月～2024年11月)
JPJSJRP20211707の成果の一部をご紹介します。

お問い合わせ先: 同志社大学
創造経済研究センター事務局
TEL: 075-251-3728 / FAX: 075-251-3727
E-mail: rc-csce@mail.doshisha.ac.jp